



【写真上】 Bunako ミュートを持つ（右から）小林さん、倉田社長、山川さん
【同下】 Bunako ミュート。中央には青い海と森の音楽祭のロゴがあしらわれている



幼い頃からブナの木工品「Bunako」が身近にあったという小林さんは、同社が

弘前市の木工品製造業「Bunako」（倉田昌直社長）



トランペット山川さんに寄贈

ブナコのミュート 音楽祭で使用

が、トランペットの演奏で使うミュート（弱音器）「Bunako ミュート」を開発した。31日に本県で開幕する「青い海と森の音楽祭」で、青森市出身のトランペット奏者・山川永太郎さん（31）らを使用する予定で、2日、倉田社長が山川さんに寄贈

した。開発に当たっては、奏者の小林鴻さん（35）＝弘前市出身、広島県在住＝が監修。小林さんと山川さんは「木ならではの柔らかい音とクリアな高音がいい」と喜んでいる。

ミュートは楽器のベルに はめて音色を変えるもので、既製品は金属製が一般的。小林さんは演奏活動の中で形状や素材など多くの種類があるミュート選びに悩むことが多く「自分で作りたい」と思ったのが出発点となった。

倉田社長は青森生まれのミュートを音楽祭でも使ってもらおうと、山川さん用も製作。2日に青森市内で行われた贈呈式では、音楽祭ロゴを入れたミュートを倉田社長が山川さんに手渡した。

倉田社長と小林さんは「納得のいくものができた」、山川さんは音楽祭を前に「青森のホールで青森のミュートの音が響くのが楽しみ」と話した。

ブナコミュートは同社のオンラインショップなどで販売中。小林さんと山川さんが出演する「アオモリトランペットファイブ」の公演（3日、青森市中世の館）でもミュートを使って演奏する。（秋村有香）